

感研プロジェクト 3.11

G3-3 チーム主催研究会「人口学から見た地域の将来像」

主 催：感性福祉研究所研究プロジェクト 3.11 G3-3 チーム

共 催：東北福祉大学仏教文化研究所

日 時：平成 30 年 9 月 28 日 9 : 00 ~ 18 : 00

会 場：東北福祉大学国見キャンパス第 1 会議室

1. 研究会スケジュール

日時	内容
9 月 27 日 17 : 00 ~ 19 : 00	講師事前打合せ
9 月 28 日 9 : 00 ~ 9 : 15	研究会開会挨拶 大谷哲夫 研究会の趣旨説明 斉藤仙邦
9 : 15 ~ 12 : 00	研究会① 講義「日本の人口変動とその背後にある家族変動と人口移動」 丸山洋平(札幌市立大学) 論点提示「地域社会の未来と福祉システム」 渡邊圭(感性福祉研究所) 「これまでの寺院調査の概要と特徴」 石附敬(東北福祉大学) 質疑応答
12 : 00 ~ 16 : 00	休憩、本学の見学・紹介
16 : 00 ~ 17 : 50	研究会② 参加者ディスカッション
17 : 50 ~ 18 : 00	研究会閉会挨拶：斉藤仙邦

2. 研究会の様子

研究会では、札幌市立大学の丸山洋平先生に人口学の立場より「日本の人口変動とその背後にある家族変動と人口分布変動」をテーマとして、人口減少社会がどのように進展しているのかについての人口学の基礎的なレクチャーを受け、震災後の人口減少が進行している東北地方における地域の将来像とそこでの宗教者・寺院の役割、求められる機能に関する議論を行った。参加者での議論を展開するにあたり、本学感性福祉研究所の渡邊研究員、平成24年度採択私大戦略事業の際に寺院調査を実施した石附准教授からの2つの報告－「地域社会の未来と福祉システム」(渡邊報告)、「これまでの寺院調査の概要と特徴」(石附報告)－を行い、将来の東北地方の復興と今後の災害対応における宗教者、寺院の役割と機能に関する議論が展開された。

研究会の開催にあたり、本学の大谷哲夫学長より、震災により人口減少が加速している東北地方における復興とそこでの宗教者、寺院の将来像について検討をしていく必要があるとの研究会開会の挨拶がなされた。その後、G3-3 チームリーダーの斉藤仙邦先生より、「人口減少時代と宗教法人について」のテーマにて簡単な今回の研究会の趣旨の説明がなされた。

【研究会の趣旨説明(斉藤)】

【開会の挨拶(大谷哲夫学長)】



研究会の前半では、講師である丸山洋平先生より、東北における震災後の人口減少の問題を議論するにあたり、そもそもの日本全体の人口減少がどのように進行しているのか、日本社会全体の状況として人口動態の推移と世帯構成の変化(単身世帯の急増)に関する報告を頂いた。その上で全体ディスカッションに向け2つの報告(渡邊報告、石附報告)がなされ、今後の震災復興における福祉システムの方向性、東北地方の寺院の現状についての報告がなされた。

前半部の研究会の質疑応答として、大都市地域と地方地域の人口動態の変化に関する質疑がなされ、都市部でも郊外地域は地方と同様に高齢化と世帯数の変化(3世帯から夫婦世帯、高齢夫婦、高齢単身世帯)が同様に生じているとの話が出された。

【丸山先生による報告】



研究会後半では、前半部分での人口学からの人口減少社会、世帯構造の変化に関する報告、東日本大震災からの復興における東北地域の状況とそこからの福祉システムの展望、東北の寺院が置かれている状況の報告をもとに、今後の東北地域がどのようになってゆくのか、そこでは宗教者、寺院はいかなる役割を果たすべきかの議論が行われた。参加者からの議論を総括すると、日本全体と地方における人口減少と世帯構造の変化、被災地域の複雑な復興過程の状況という中で、宗教者、寺院の役割、機能を検討するためには、そのような社会・地域の状況を宗教者、寺院がどう考えているのかについて整理し、そこから、地域社会における将来的な宗教者、寺院の役割が考えられるのではないかという一時的な結論が出された。

【参加者全体でのディスカッションと総括】

